PVeye 2023年9月号掲載

〝再エネ100〟実現へ
脱炭素企業の
創意と挑戦

多彩なPPAに活路

始まった自動車業界の脱炭素化

自動車業界も脱炭素化に力を入れている。
PPAが多様化し、再エネを調達しやすくなったため、〝再エネ100〟へ歩みを始めた。

自動車メーカーが脱炭素を推進している。トヨタ自動車は2050年の脱炭素化に向け、「素材・部品製造、車両製造、物流、エネルギー製造、走行、廃棄・リサイクルなど、車のライフサイクル全体でGHG（温室効果ガス）排出量を削減する」（広報部）との考えを示す。つまり、原材料調達から生産管理や物流、販売までのサプライチェーン全体で脱炭素化を目指すわけだ。

当然、自動車部品メーカーにもその方針は伝わっているが、自動車業界における再生可能エネルギー利用はそれほど進んでいない。というのも、世界中でEV（電気自動車）への移行が加速するなか、内燃機関部品の製造会社が多い日本では、厳しい環境下に置かれており、太陽光発電設備への投資や環境価値の購入など、コスト負担の大きい再エネ化に取り組む余裕がないというのが実情なのだ。

自動車メーカーが〝再エネ100〟にこだわっていない点も、再エネ利用が進まない要因かもしれない。事実、事業用電力の100%再エネ化を目指す国際イニシアチブ『RE100』に加盟する自動車メーカーは現状ゼロだ。ある自動車部品製造会社の社長は、「自動車メーカーは再エネより低炭素燃料の開発や利用に目が向いている」と語る。

とはいえ、再エネ100を目指す企業も存在する。エンジン部品の点火コイルを製造するダイヤモンドエレクトリックホールディングスがその代表格で、同社は20年12月にRE100へ加盟した。その狙いについて、同社の小野有理社長は、「以前から独自に脱炭素化を進めてきたが、RE100に加盟すれば、我々の進め方が合っているのか、第三者に評価してもらえるので、自信をもって取り組めようになる」と話し、続けて「周囲へ発信していきたいという思いもあった」と述べた。同社は工場に自家消費用太陽光発電設備を導入したり、事業所で使用する電力を再エネ電力プランに切り替えたりして再エネ比率を高めている。

ただ、同社にはRE100へ加盟した狙いがもう1つある。RE100企業向けの再エネ関連設備販売を伸ばすことだ。同社は太陽光発電用PCS（パワーコンディショナ）や蓄電設備などの再エネ関連設備メーカーでもある。小野社長は「自ら再エネ100を進めながら知見を高め、再エネ製品の開発に活かしていきたい」と意気込む。

❶工場の屋根上などへ太陽光発電設備を設置 ❷太陽光カーポートも採用

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス

［再エネ目標］
50年までに使用電力の再エネ比率を100%に
↓
非公表